

未来をひらく新しい「力」

閉校——そして、開校。

今春、荒尾第二小学校と荒尾第三小学校が、閉校を迎えた。
長い歴史を刻んだそれぞれの学校は、
惜しまれつつも新しい一歩を踏み出した。
統合校・荒尾市立万田小学校の開校だ。

子どもたちは地域の宝。
そして新しい学校は、地域の希望。
万田小は、2つの地域の希望を担っている。

閉校と開校、別れと出会いを経て

未来をひらく新しい力が、今、生まれる。



4



1

閉校

ありがとう
大好きな
わが母校

2月27日(日)、荒尾第二小学校で、閉校式が行われた。浅春の寒さが残るこの日、在校生を始め、保護者や地域住民、卒業生ら約千人が参加した。

二小は明治42(1909)年に荒尾尋常小学校として開校。卒業生はおよそ1万7千700人にのぼる。

「よい子 つよい子 かしこい子」をスローガンに掲げて教育活動を展開。理科教育や書道教育において、顕著な成果を残した学校だ。

閉校式の記念事業は「ありがとう」と題され、各学年ごとにテーマを定めて構成詩が披露された。学校や友だち、学校を取り巻く人たちに對するたくさん感謝が言葉になってあふれた。

最後には二小と北尋常小学校の両校歌が斉唱された。



2

3月6日(日)には、荒尾第三小学校で閉校式が行われ、およそ800人が参加した。閉校を惜しむかのよう降る冷たい雨の中、体育館は満員となった。

三小は、石炭産業の発展に伴う人口の増加により、大正13(1924)年に、荒尾北尋常小学校から分離独立し、荒尾第三尋常小学校として開校。校区内に万田山を擁し、自然豊かな万田山の懐に抱かれ、「あかるく」たのしく「げんきよく」、およそ3千900人の卒業生を伸びやかに育て送り出した学校だ。

記念事業では、構成詩「ありがとう三小 87年の思い出は心の中にいつまでも」を高くらかに披露。また、閉校記念の歌「ありがとう三小」(本市出身の金島宗治氏の制作)が斉唱された。



5

4 記念事業で構成詩を発表する児童 5 児童代表の松山智海さんは「三小で過ごした日々はかけがえないもの。ありがとう、三小」と力強くあいさつ 6 閉校記念誌「ありがとう三小」は、卒業生の記念写真や懐かしい学校活動写真が満載



6

荒尾第三小学校

時代の変化に寄り添った87年に幕

荒尾第三小学校校歌

作詞 猿渡幸男
作曲 古城秀雄

一、朝光てらす 万田山
峯ゆく雲が ぼくたちの
明日の希望を 呼んでいる
荒尾第三小学校
さあ 学びやの 窓あけて
学びの道を はげむのだ
二、風もすがしき 校庭の
明るい花が わたしらの
高き理想を 呼んでいる
荒尾第三小学校
さあ 学びやに 睡みつつ
心の玉を みがくのだ
三、潮路はるかに 有明の
わきたつ虹が よい子らの
輝くゆくて 呼んでいる
荒尾第三小学校
さあ 学びやの 芝ふんで
つよい休を つくるのだ

ありがとう三小
〜荒尾第三小学校閉校記念の歌〜

作詞/作曲 金島宗治

一、青空高くフェニックスの木
温かくいつも見守っていた
思い出のドア 開ければいつもよみがえる
校庭を走る 仲間と笑い合う
春も夏もここで過ごした
ありがとう三小 心の中にいつまでも
万田の山に 輝く朝日
二、教室の窓に光溢れて
思い出のドア 開ければすぐによみがえる
チャイムが響く みんなで学びあう
秋も冬もここで過ごした
ありがとう三小 心の中にいつまでも
かなたに望む有明の海
夕焼けに染まる空を見ていた
思い出のドア 開ければきっとよみがえる
今日に繋がる八十七年が
未来へ続く誇りとなって
ありがとう三小 心の中にいつまでも

荒尾第二小学校

重厚な101年の長い歴史にピリオド

荒尾第二小学校校歌

作詞 猿渡幸男
作曲 古城秀雄

一、朝雲なびく 小袋を
光と仰ぐ この窓に
文読む声も はつらつと
つねにたゆまず 学ぶもの
ああ 荒尾第二小学校
若き命を いざ歌え
二、潮は香る 有明の
風もすがしき この庭に
心を磨き 身をきたえ
強く正しく 伸びるもの
ああ 荒尾第二小学校
固き誓いを いざ示せ

荒尾北尋常小学校校歌

作詞 八波則吉

一、地中の宝 掘り出でて
御国を富ます 万田坑
四つ山坑に程近き
吾が学び舎に 幸あれや
二、三池の山に 差し昇る
朝日とともに 爽やかに
入日かがよう 有明の
海と想いを 広らかに
三、学びの道に いそしみて
強く正しき 人となり
師の御教に 従いて
君と親とに 報いなむ



3

1 閉校式典にて校歌を力いっぱい斉唱する児童 2 児童代表であいさつした吉元純菜さん。「母校がなくなるのはさみしいが、最後の卒業生であることを誇りにしたい」と語る 3 閉校記念誌「大銀杏あかつち山」。卒業生の名簿を完備。

年・月	沿革
大正 13 (1924) 9	荒尾北尋常小学校から分離独立、荒尾第三尋常小学校として開校
昭和 11 (1936) 4	原万田、甲根、万田東を荒尾第二小学校から編入(校区変更)
昭和 20 (1945) 7	戦災で校舎焼失
昭和 22 (1947) 4	学制改革により荒尾市立荒尾第三小学校となる
昭和 38 (1963) 11	三池炭鉱三川坑炭塵爆発事故により、保護者31人が死亡。関係児童102人
平成 7 (1995) 2	第1回「三小日曜ふれあいフェスタ」開催
平成 9 (1997) 3	三井三池炭鉱閉山
平成 15 (2003) 9	創立80周年記念航空写真撮影(保護者・地域住民参加)
平成 18 (2006) 5	第1回ふれあい大運動会開催(万田山いきいき町づくり会)
平成 22 (2010) 5	最後の運動会を地域と合同で開催

年・月	沿革
明治 42 (1909) 5	荒尾尋常小学校として開校 翌明治43(1910)年1月、荒尾北尋常小学校に改称
大正 13 (1924) 9	荒尾第三尋常小学校を分離
昭和 22 (1947) 4	学制改革により荒尾市立荒尾第二小学校となる
昭和 38 (1963) 11	三池炭鉱三川坑炭塵爆発事故により、保護者12人が死亡、13人負傷。関係児童31人
昭和 56 (1981) 3	海達公子詩碑設置
平成 8 (1996) 3	全児童用の机・椅子に雑音防止のためのテニスボールを取り付ける。翌4月、難聴学級を設置。
平成 18 (2006) 11	二小校区レクリエーション大会(校区運動会)を実施
平成 21 (2009) 1	男子バスケットボール部が九州大会に出場(22年まで2年連続)
平成 21 (2009) 3	男子バスケットボール部が全国大会に出場(22年まで2年連続)
平成 21 (2009) 11	創立100周年記念式典

万感の思いを胸に 万田小の子どもたちに送るエール

「二小」という言葉が聞かれなくなるのは寂しいです。しかし、万田小を見守っていくことができる節目にいられてとても幸せです。

新しい出会いに感動して、人との触れ合いを大切に、優しい人になってください。



二小出身
浦田昌子さん（四ツ山町3丁目）

三小の閉校はとても寂しく思いましたが、万田小の開校は、黄昏からすぐに曙が訪れたように感じています。

小学校で学んだことは大人になっても残ります。友達を作り、思いやりのある人に育ててほしいですね。



三小（第三尋常小学校）出身
早起圭彦さん（万田中）

希望と期待に胸膨らませ 互いに伸びゆく万田っ子



6年 嶋田拓真さん（朝日）

三小・二小2つの学校のみなが仲良くなれるようにがんばりたいです。1年生に頼られる6年生になりたいです。



6年 山木瑠美さん（万田中）

1年生から6年生まで仲良くできて、誰にでも進んでいきたいと思います。



1年 片山聖南さん（西原町2丁目）

サッカーが好きです。家でも練習します。国語や算数の勉強をがんばります。新しい友達もつくりたいです。



1年 冷牟田桃果さん（西原町2丁目）

ジャングルジムが好きです。あたらしい友だちができました。国語や算数の勉強をがんばります。

2つの学校と地域の良さを活かしながら、新しい出発

万田小学校として赴任し、楽しい毎日です。新しい環境で、児童も教員も心地よい緊張感を持ちながら、前向きに過ごしています。万田小では「大好き！笑顔あふれる万田小」を校訓に、子どもたちが毎日楽しいと実感する学校づくりを目指します。また、地域に根差した学校として、旧二小・旧三小それぞれの地域が持つ良さを取り入れながら、これからの少子化と地域の協力を深めていきたいと思っています。



万田小学校 校長
浦部眞 先生

昔は子どもの遊ぶ声があちこちで聞こえていたけれど、今は聞かれなくなった——浦田昌子さんは寂しそうに言った。かつてまちには、たくさんの子どもたちが走り回っていた。

基幹産業として荒尾を支えた石炭産業の隆盛により児童数が増加し、分離した二小と三小。今年、時代の変化と少子化の流れの中で、再び1つの学

校として新しく生まれ変わった。

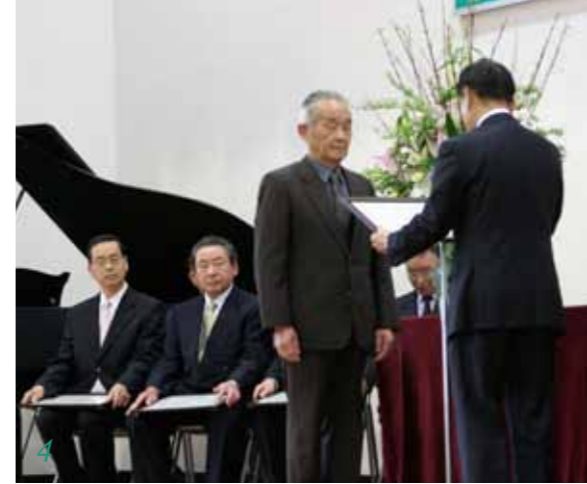
「学校がなくなるのは寂しい」インタビューに応じてくれた2人の卒業生はそれぞれ口にした。母校がなくなる寂しさはもちろん、子どもたちは常に地域の大切な活力だからだ。しかしすぐに「万田小学校を見守っていききたい」と明るい表情が浮かんだ。元気づくり事業への参加や、地域の住民による特

別授業を実施し、地域で子どもたちを育ててきたからこそ、万田小学校へ両校区住民が寄せる期待は大きい。この期待の大きさは、大人が子どもたちを守り育てる決意の現れだと感じた。

2校の統合——それは1+1だが、答えはきっと無限大。未来と社会をよりよく変える力は、学校・家庭・地域、そしてこの子どもたちに宿っている。

二校の歴史と文化を継承し、未来を紡ぐ「力」に。優しさと笑顔あふれる、誇るべき学校を目指して。

開校



4月1日。二小と三小、二つの学校の魂を受け継ぐ万田小学校が、ついに開校した。4月8日（金）、新学期の始業式を前に、開校式が行われた。万田小学校の校舎は平成21年度を最後に閉校した、旧荒尾第二中学校。校舎を増築し、この日初めて計314人の児童を迎え入れた。開校式では、浦部眞校長が荒尾の誇り、日本の誇りとなるような学校を作っていくとあいさつ。また、児童代表として二小出身の菊堂聖也さんが「伝統の石垣を積み上げていきます」、三小出身の川口陽斗さんが「あいさつと掃除ができる学校にしたい」とそれぞれ誓いの言葉を述べた。そして4月11日（月）、万田小学校の第1回の入学式が行われた。期待に胸を膨らませて入学した1年生は、69人。万田小学校は383人の児童とともに、地域の未来を担って新しい歴史を紡ぎ始めた。

地域の未来を担う「力」となる、新しい学校がついに産声を上げた。



1_新しい校旗が、学校設置者の前畑市長から浦部校長へ授与された。2_誓いの言葉を述べた菊堂聖也さんと3_川口陽斗さん。4_感謝状授与。校舎の増改築の設計・施工、校章の考案、校歌制作に携わった6人に感謝状が贈られた。5_新しい校歌が初めて披露された。6_入学式。希望に目を輝かせる新1年生。7_在校生代表として小嶋雄大さんが「楽しいことがたくさんあります。一緒にがんばりましょう」とあいさつ。